

(別添4)

【魚津市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 ICTを推進する上での目指す姿

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)では、GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用・整備を進め、一人ひとりの児童生徒の実態に応じた指導による「個別最適な学び」と、他者と協働することで多様な考え方に触れ自己の考えを広げ高める「協働的な学び」の充実を図ることが必要とされています。

また、富山県教育委員会が定める「令和6年度 幼・小・中学校教育指導の重点」に基づき市内各校で作成している「教育指導計画」では、児童生徒がICTを活用し、自分の意見や考えを発信したり多様な他者とつながり協働したりしながら学習者主体の学びを実現し、その基盤となる情報活用能力や自己調整力を高めることを目指すとしています。

これらをもとに、魚津市においては、1人1台端末をはじめとするICT環境を積極的に活用し、児童生徒1人ひとりが自ら課題を発見し、課題解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果を表現しながら実践に生かしていける力を育む特色ある教育の充実を目指します。

2 GIGA第1期の総括

魚津市では、令和2年度にGIGAスクール構想の実現に向け、全児童生徒にタブレット端末(以下学習用タブレット)を配備するとともに、全小中義務教育学校に学習用タブレットを接続するための新しいネットワークと無線接続環境を整備しました。併せて、普通教室と一部の特別教室に電子黒板を配備及び協働学習を補助する授業支援ソフトウェアを導入し、授業ICT活用を推進する環境を整備しました。

令和3年度には学習者用タブレットで利用できるデジタルドリルを導入し、自宅にネットワークが整備されていない児童生徒にはモバイルルータの貸出しを行い、端末を持ち帰り家庭学習や連絡ツールとして利用できる環境を整備しました。

さらに、端末やネットワークの不具合に即時対応できるようGIGAスクール運営支援センターを設置し、各学校に定期巡回するICT支援員やICT支援員不在時に連絡できるヘルプデスクを配置しています。

加えて、ビジュアルプログラミングを活用した授業実践やクラブ活動でのゲーム作り、実践の場としてのロボットプログラミング大会の開催等、プログラミング教育の推進にも多角的に取り組んでいます。

教員に対しては、端末を活用した授業づくりを目指して、市教育センター主催の市内全教員を対象とした研修や校内研修、市内小中学校間の互見授業など、様々な研修を実施してい

ます。そのほか、魚津の学び向上委員会の学力向上部会において ICT 授業実践例集を作成し、実践例の蓄積に取り組んでいます。

以上の取り組みから、児童生徒・教員ともに ICT 活用頻度及び能力は年々向上していますが、一方で、学校間・学級間・教員間の活用頻度の差については依然として散見され、さらなる活用の促進が課題となっています。

3 1人1台端末の利活用方策

十分な予備機を含めて端末を適切に更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提として、以下のように利活用を推進していきます。

■ 1人1台端末の活用

児童生徒が端末を自ら主体的に活用していくためには、学校生活における日常的な端末の利活用が重要です。それを実現するために、教員の指導力向上のための研修を充実させることで、教員が活用することへのハードルを下げ、積極的な活用を図ります。

■ 個別最適・協働的な学びの充実

デジタルドリル等の学習記録をデータとして蓄積し可視化することにより、自分自身に合った進度での学習を主体的に進められるよう環境を整備し、児童生徒一人ひとりに合った資質・能力の育成を図りつつ、並行して授業支援ソフトウェアや整備済みの電子黒板を活用した発表などを通し、多様な思考を持った他者との相互理解、互いに協力しての課題解決能力の育成を目指します。

■ 全ての児童生徒の学びの保障のために

様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で端末を活用していきます。特に、個々の家庭状況や学校教育になじめない児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒、障がいのある児童生徒等の学びの幅を広げ、学びの機会の保障や教育の機会均等を確保していきます。